

平成14年2月22日

各位

東京都港区三田三丁目1番12号  
株式会社 クレスコ  
代表取締役社長 浦崎 雅博  
(コード番号: 4674)  
問い合わせ先 常務取締役 管理本部長  
波多腰 茂  
03-5445-5011 (代表)

## 平成14年3月期通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

平成13年10月22日の中間決算発表時に公表いたしました平成14年3月期(平成13年4月1日から平成14年3月31日)の通期業績予想および配当予想につきまして、下記のとおり修正いたします。

### 記

1. 平成14年3月期単独通期業績予想数値の修正(平成13年4月1日～平成14年3月31日)  
(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年10月22日発表)	13,300	570	220
今回修正(B)	12,350	20	150
増減額(B-A)	950	550	370
増減率	7.1%	96.5%	-
前期(平成13年3月期)実績	11,926	1,300	649

2. 平成14年3月期連結通期業績予想数値の修正(平成13年4月1日～平成14年3月31日)  
(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年10月22日発表)	14,200	580	200
今回修正(B)	13,100	80	220
増減額(B-A)	1,100	660	420
増減率	7.7%	-	-
前期(平成13年3月期)実績	12,418	1,228	560

### 3. 修正理由

#### (1) 単独業績の修正理由

通期の業績予想につきましては、中間決算時点において下記の前提に予測を行いました。  
ソフトウェア開発は、金融関連を中心に需要は底堅い。  
マイコンシステム開発は、通信システム関連の需要が持続する。

しかしながら、昨年後半から景気の低迷が深刻化し、市場は急速にIT投資の抑制へと転じました。特に、銀行を中心とした金融関連案件の減少や通信システム関連の大型案件の中断などの影響により、売上高では前回発表予測を9.5億円下回り123.5億円(前年同期比103.6%)となる見通しです。

一方、経常利益および当期純利益については以下の理由により、前回発表予想を下回ることになりました。

携帯電話、PHSの開発業務において、開発プロジェクトの中断や縮小が発生し、大量の要員稼働損失が発生した。  
ソフトウェア開発において、開発プロジェクトの失注が発生した。  
上期に発生した赤字プロジェクトの一部が下期においても継続し、開発原価の追加が発生した。

#### (2) 連結業績の修正理由

上記単独の業績修正に加え、連結子会社の業績につきましても、中間決算時点の予測を下回る見通しとなったため、前記の通り通期連結業績見通しを修正いたします。

### 4. 配当金について

上記の通期業績予想の修正に伴い、期末配当につきましては、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきます。これにより、平成13年10月22日の配当予想を下記のとおり修正いたします。

	中間期	期末	年間
前回発表予想 (平成13年10月22日発表)	10円00銭	10円00銭	20円00銭
今回修正予想	10円00銭	0円00銭	10円00銭
前期(平成13年3月期)実績	15円00銭	10円00銭	25円00銭

前期実績の中間期には、記念配当5円00銭を含んでおります。

来期に向けては下記の取組みを行い、業績の早期回復を実現することによりまして、積極的な株主還元を実施してまいります。

何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 5. 来期(平成15年3月期)に向けての取組みについて

今期業績予測の修正要因となりました赤字プロジェクトにつきましては、今期中に完了いたしますので来期業績への影響はないものと考えております。従いまして、来期に向けては以下の取組みを行い、業績の回復に邁進いたします所存であります。

- (1) 組織・人事の抜本的な刷新を行って、経営全般の改革を推進します。
- (2) 営業力を増強し、安定的受注の確保を図ります。
- (3) 赤字プロジェクトの発生を未然に防止すべく、プロジェクト管理部門を新設します。
- (4) 全社のコスト削減を実施します。

以上